

高粱の文化財⑨

国重要文化財旧片山家住宅

～弁柄豪商の住まい～

銅山開発と弁柄製造で栄えた成羽町吹屋は、昨年、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されてから三十年を迎え、記念行事がにぎやかに催されました。この吹屋の町で、二百年余にわたり弁柄を商ってきたのが片山



旧片山家住宅の外観

家こと胡屋です。片山家の当主は代々浅治郎を名乗り、弁柄工場や緑鑿鉾山を経営する傍ら坂本村の庄屋や吹屋町長を務めました。またその一族は、北片山・中片山・角片山に分かれて弁柄業のほか金融業や薬種業に携わり、吹屋の有力商人として活躍しました。

この片山家の住まいは、吹屋往来をのぼりつめた中町地区の西端にあります。通りに面した主屋は、一階に弁柄格子、二階になまこ壁と虫籠窓といった伝統的な意匠に加えて、両開きの大戸や腰壁などに近代的な装いが見て取れます。塩田瓦で葺かれた屋根は、袖蔵に向かつて階段のように棟の高さを変えています。これは江戸時代後期から明治時代後期にかけて家業の隆盛とともに増築を繰り返したことによるものです。内部は、通りに面した表を営業の場にあて、その奥は土間に大きな竈を築くなどして生活の場に用いられました。また、庭に面して建つ座敷は、石見（島根県西部）から招いた大工に銘木をふんだんに用いて建てさせた豪華なつくりで、主に接客の場として使用されました。

主屋の裏には、工場から運び込んだ弁柄を調査・箱詰めして出荷した作業場や、米や什器などを納めた土蔵が建ち並んでいます。座敷からの眺めを意識して二階の壁には杉皮を張り、なまこ壁にも建物ごとに異なる意匠を用いるなど、いずれも凝ったつくりとなつて



弁柄工場を描いたポスター

います。こうした建物の内部には、当主が集めた書画や書籍などのほか、弁柄商にかかわる記録や製作用具などが数多く残されており、吹屋弁柄の歴史を物語る重要な資料となっています。

このように片山家住宅は、伝統的建造物群保存地区を代表する建物であり、弁柄豪商のたがずまいを今に伝える貴重な建物として、平成一八年一二月、国の重要文化財に指定されました。現在は、所有者から寄贈を受けて保存修理を実施しており、間もなく装いを一新したその姿を皆さんにご覧いただけるものと思います。

(文・社会教育課文化係長 亀山行雄)

編集と発行(毎月15日発行) 高粱市総務部企画課

〒716-8501 岡山県高粱市松原通2043 電話0866(21)0210 ホームページアドレス <http://www.city.takahashi.okayama.jp/>



この印刷の一部には水質保全に有効な水なし印刷方式を採用しています。



環境にやさしい大豆油インキを使用しています。

再生紙を使用しています。